て、恙虫伝播による疾病の存在が疑われる場合に、本種の疫学的意義は軽視出来ない。*T. (L.) palpalis* は前種に次いで採集数が多かったが、本種は前種と逆に冬期において甚だ優勢であつて、現在までの所夏期の記録はない。而もその分布は札幌以南の地区にのみ限られて記録されている。*T. (N.) pomeranzevi* に2型あることは林等によつて報告されたが、昨年度の調査では日高アポイ山のみにて2型の混在が認められた。此のことに就いては、今後更に検討を加えて行かねばならない。尚本種がベークライト板による採集によつて採集され得ることを知つた。*T. (N.) japonica* は5月の1回の記録を除いて秋期より冬期にわたる3カ月にのみ出現する。*G. (G.) saduski* も少数ずつであるが、殆ど一年を通じて出現し、その分布も道南地方に可成り広いと思われる。(北海道・衛研、自衛隊・札幌、伝研・寄生虫)

日光地区におけるツツガムシ検索の一例

木村 博夫 竹内 一豊

Kimura, H. & Takeuchi, K.:
Report of trombiculid mites in
a certain small area of Nikko

昭和30年11月10日より11月11日にかけて、日光の今市西方、古河電気精銅所真上の斜面において、きわめて局限された地域であつたが、野兎を採集し、且つ宿主より恙虫を分離同定したので、その結果を報告し若干の知見を付け加える。宿主はパチンコ式捕兎器を用いて捕集した。種類はハタネズミ *Microtus montebelli* 並びにアカネズミ *Apodemus speciosus* で、頭数は前者が3頭、後者が2頭、計5頭であつた。分離した恙虫は2属5種、即ちアラトツツガムシ *T. intermedia*、フトゲツツガムシ *T. pallida*、ヤマトツツガムシ *T. japonica*、フジツツガムシ *T. fuji* 並びにキタサトツツガムシ *T. kitasatoi* であつた。総数135匹に及び平均宿主1頭当り吸着数は27.0匹であつた。*T. intermedia* が最も多数で次いで *T. fuji* であつた。他は極めて少数が分離されたにすぎなかつた。今回分離された *T. intermedia* の胴部背面の剛毛式はきわめて不定な数を示したのが特徴と考えられる。この中で *intermedia* の定型として従来文献に記載されているものは、2, 10, 8, 8, 6, 4, 2 であるが、この剛毛式は24匹数えられ、他は悉くきわめて不定数を示している。又剛毛の列が7列のものが多かったが若干数のものは8列の密生がみられた。今回分離した *intermedia* の背甲板の計測値並びに形状に関して2つの種類の特徴が観察された。その1はPWの値

が大きいことである。何れも79.2~82.5 μ の値を示した。又この値を有するものはPS>APであつた。APが短いために後隅角から後縁にかけて明瞭に梯形の底辺状をなしていることが形状の特徴として認められた。その2はPWの値が小さいことである。何れも72.6~74.25 μ の値を示した。この値を有するものはPS<APであつた。APが長いために後隅角から後縁全般にかけては梯形の底辺状をなすことなく平坦に流れている。なお剛毛の側枝はきわめて太く長いものと細く長いものと二種類がみられたが剛毛式及び背甲板の性状と特に密接な関連は認められない。次にvsaを含めた腹面剛毛の側枝は一般的に背面毛側枝に比して細く長いことが認められた。vsaは一般に長いことがみとめられた。なお背甲板の上記特徴は何れも少数グループずつみとめられ大部分のものはおおむね移行中間型であると考えられた。本州山林畑地にこの時期に通常屢々観察せられる、*Gahrlepieia saduski* が全然みとめられなかつたこと並びに深い山でないため *Euschöngastia* がみられなかつた。

(陸上自衛隊・衛生学校)

八丈島における恙虫及び恙虫病の研究

上 野 庸 治
田 中 寛 佐々 学

Ueno, Y., Tanaka, H. & Sasa, M.:
Studies on trombiculid mites and tsutsumamushi disease of Hachijo Island

八丈島に於て現在迄に10種の恙虫が佐々等に依り記録されているがその中 *T. scutellaris*, *T. wichmanni*, *T. hasegawai* 及び *Neos. posekanyii* の季節消長を観察する事が出来た。*T. scutellaris* に就いては野兎についた個体を採集してその消長を観察又プレート法に依つても観察し他の種は兎に着かないので皆プレート法に依つた。野兎に就いて観察した *T. scutellaris* の季節消長は11月初旬に始まり、此の時の1頭平均1.6匹で次第に多くなり1月中旬の最高の129.3匹となり以後次第に少くなり2月中旬には27.3、4月には0.7、5月に0.4となつて消失した。プレート法による観察に於ても略々同様の成績を得た。*T. scutellaris* の地方別発生は温暖になるにつれて遅れて来るのが見られた。*T. wichmanni* は6月中旬から11月中旬迄で最高発生は8月下旬より9月下旬迄、*T. hasegawai* は6月下旬より9月中旬迄で最高は7月初旬、*Neos. posekanyii* は6月下旬より9月下旬迄で、7月下旬に最高発生を示した。八丈に於ては、*T. scutellaris* は冬期に大量発生を見、地表の岩石